

▼オピニオン：インフラテクコンから広がる社会 地域と●●を『つなぐ』人づくり

徳山工業高等専門学校 土木建築工学科 教授
国立高専機構 研究推進・産学連携本部（併任）
わくわくピーナッツ 指導教員
しゅうニャン橋守隊 副隊長

海田 辰将



1. いつの時代も高専は『地域』と共にある、ということ。

全国の都道府県に高専が設置されている（国立51高専）ことは皆さんご存知かと思います。では、多くの高専が「県庁所在地では無いところ」にあることにお気づきでしょうか？このことは、我が国独自の高等教育システムである高専が「地域産業を担う人材育成（即戦力）や地域課題の解決」を使命として設置されたことを分かりやすく表しています。また、高専の学生たちのほとんど（本校の場合は9割）は県内または県境出身者で占められていることも特徴的です。

一方、昨今の高専には教育・研究の国際化や高度化が社会的に求められており、全国や海外で活躍する人材の育成、その中でリーダーとなる人材の育成が高専教育の柱となりつつあります。しかし私自身、他県での高専&国立大教員を経て母校で勤務する経験から、地方国立大とも工業高校とも全く異なる高専だからこそその役割があると思っています。それは「地域と全国あるいは地域と海外を“つなぐ”人材を育成すること」。このような観点からインフラテクコンをみたときに「高専が地域課題を解決するためのハブとなり、より良い地域社会を生み出す」とのコンセプトは、とてもしっくりくるものでした。もっと言えば、より良い地域社会を生み出すためには「人」の好循環を地域に生み出すことが不可欠と考えており、地域からの信頼で成り立っている高専には、それを実現させるための土壌があるように思います。

2. 地域と学生をつなぐ課外活動：インフラテクコンへの布石？

・・・と聞いて、まっ先に思い浮かぶのは地域の企業や自治体等との共同研究ではないでしょうか？実際、地域の課題解決に対して卒業研究として取り組むことで学生たちが地域と繋がり、要素技術の実用化や社会実装が期待される研究テーマは非常に多いと思います。しかし、本校でインフラテクコンに食いついてきたのは、研究活動とは無縁な3,4年生の男子6人（しかも色々と難あり）でした。彼らの最大の武器は「元気」と「やる気」、そして「根拠のない自信」。この時点で、色々吹っ切れました。

ではなぜ彼らが専門性の高いインフラテクコンに臆せず挑戦しようと思ったのか？その背景に、本校では地域と連携した多種多様な課外活動が展開されていることが挙げられます。以下はその一例です。

写真-1は、年に10回以上実施している少人数での現場見学会の1コマです。1年次から誰でも好きな時に参加できるこの現場見学は、LINEグループやTeamsで有志を募り、放課後や土曜日に公用車で近場の建設現場（規模や工種問わず）にお邪魔します。本当に興味があって手を挙げた子たちなので現場では積極的に質問が飛び、帰校後にその体験を友人に喋り散らかすため、口コミ効果は絶大です。

写真-2は、「しゅうニャン橋守隊（土木学会インフラパートナー）」による市民活動です。本隊は、猫のように気まま&不定期に集い、地域の橋の清掃・簡易点検やインフラに関わる様々な体験イベントを行います。本校の学生たちは気が向いたときに毎回5~20名ほど参加しており、地域の子供たちや大人たち、技術者、管理者の方々との交流を楽しみながら活動しています。私が橋守隊の副隊長（“学”担当）を務めていることもあって、この橋守活動がわくわくピーナッツの作風に与えた影響は特に大きく、「ICT+スマホゲームによる気付けばインフラメンテ依存症!?!」の中で「産官学民」「みる目」「楽しさ」「気付けば」「いつのまにやら」といったキーワードには橋守活動と同様のコンセプトが色濃く出ています。

3. 「ICT+スマホゲームによる気付けばインフラメンテ依存症!?!」のその後と今後

今回、わくわくピーナッツの自由すぎる提案が、記念すべき第1回目のインフラテクコンで最優秀賞

を受賞した反響はとてつもなく大きく、現在までに新聞などのメディア取材 9 件、ラジオ出演 2 件、執筆依頼 4 件、論文投稿依頼 1 件、講演依頼 1 件、さらに AI 画像診断に関わる国内外の大学の先生方からの問い合わせも頂いていますが、全てに対応しきれないという嬉しい悲鳴と罪悪感に悩んでいます。

一方、現時点では単なるアイデア（絵に描いた餅）に過ぎないこのゲームを実現させて欲しいという声が多いため、リーダー学生の卒業研究として発展させ、まずはその可能性やクリアすべき具体的な課題等について探っていくことになりました。とはいえ、本校だけ土木分野だけで描けるシナリオではありませんので、多方面の方々よりご助言やお力添えを賜りたく存じます。

4. インフラテクコンへの期待

全国の高専には土木系以外にも様々な学科があり、全ての高専に学生の教育・研究活動を通じて地域と企業、地域と行政、地域と学校を『つなぐ』人材を育成できる土壌があります。第 1 回インフラテクコンに応募された提案の多くが、土木分野でのインフラマネジメントを意識しながらも他分野の技術や知識が不可欠な内容となっており、インフラテクコンから様々な立場や分野の方々との連携を推進するためのプラットフォームが生み出されることに期待します。また、今後のインフラマネジメントと市民協働を考える際には、インフラは「大切なもの」だけでなく「楽しいもの」とか「可愛いもの」などといった、新たな付加価値をプロデュースするための遊び心や若干のおふざけを許容すること（≒一般市民にとって分かりやすいメリットを考えること）が大切であり、元気で素直な高専生たちがインフラテクコンを通じて良い意味での「型破りマインド」を広く業界に浸透させてくれることを願っています。



写真-1 少人数で行く！身近な地域の現場見学会



写真-2 橋守活動



写真-3 インフラテクコン交流会 2021.3.15
(わくわくピーナッツの6人衆)



写真-4 2021 メンバー募集のつもり
(ダメだこりゃ…)